

第57回大津市民体育大会

運営要項 <球技の部>

卓球

1 種別 男女シングルス・混合ダブルスで編成される学区チームによる団体戦。

2 選手等

(1) チーム編成と試合順序

- ① 一般男子（18 歳以上）
- ② 一般女子（18 歳以上）
- ③ 混合ダブルス（一般男子と壮年女子または壮年男子と一般女子で編成）
- ④ 壮年女子（45 歳以上）
- ⑤ 壮年男子（50 歳以上）

※ 同一試合において、シングルスとダブルスの両方に出場することは出来ない。

また、一般の部と壮年の部に重複して登録することは出来ない。

(2) 監督 1 名、マネージャー 1 名、登録選手 16 名以内のチーム編成とする。

※ 監督、マネージャーがプレイヤーを兼ねる場合も、選手登録は 16 名までとする。

(3) 大学・実業団リーグ及びプロの登録選手は出場することが出来ない。

3 競技運営方法

(1) 現行の日本卓球協会競技規則に準じて行う。（コロナ対策案を含む。）

(2) 試合は、予選リーグ・決勝トーナメントを行い、順位を決定する。

(3) 3 チームによる予選リーグは全て 5 番まで行う。参加チーム数により決勝リーグになった場合は 3 点先取もありうる。1 試合は 1 ゲーム 11 点 5 ゲームマッチとする。

① リーグ戦における順位は、得点（勝ち 2 点、負け 1 点、不戦敗 0 点）で決定し、得点と同じ場合は、当事者間の勝率で決定する。

② 決勝トーナメントからは、3 点先取で勝敗を決定する。

4 その他

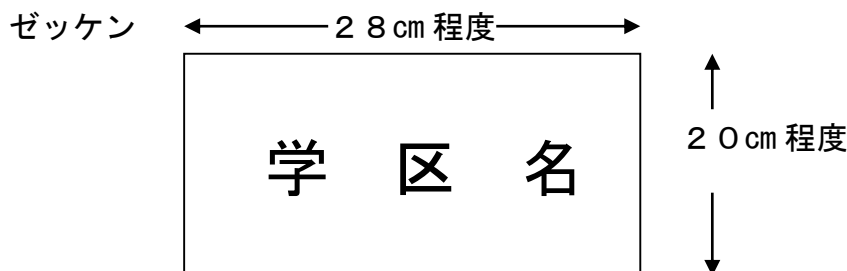
(1) 試合球は、日本卓球協会使用指定球（T. S. P 硬式）とする。

(2) 服装は、日本卓球協会競技規則に示されたもの、または運動に適したものを着用する。

(3) 体育館シューズを必ず着用すること。

(4) 出場選手はゼッケンを背中につけること。

(5) その他、競技運営にかかる一切の問題については、競技委員長が最終決定を行う。



バドミントン

1 種別 男子・女子ダブルス、混合ダブルスで編成される学区チームによる団体戦

2 チーム編成と参加制限

(1) 選手（男女とも18歳以上）

①男子ダブルス 1チーム ②女子ダブルス 1チーム ③混合ダブルス 1チーム
※混合ダブルスは、男女合計年齢90歳以上とする。

(2) 監督1名、コーチ1名、マネージャー1名、選手12名以内のチーム編成とする。

※監督、コーチ、マネージャーがプレイヤーを兼ねる場合も、選手登録は12名までとする。

(3) 原則的には大会要項に基づいて行うが、過去3年以内（大会前日まで）に全国大会の選手登録のある者は参加できない。

(4) 大学・実業団リーグの登録選手は出場することが出来ない。

3 競技運営方法

(1) 令和4年度日本バドミントン協会競技規則に準じて行う。（コロナ対策案を含む。）

(2) 各種別とも、1ゲーム21点とする。

20点オールの時、その後2点差の得点をしたサイドがそのゲームでの勝者となる。
ただし、29点オールになった場合は、30点を得点したサイドがそのゲームの勝者となる。

(3) 試合は予選リーグと決勝トーナメントで行う。ただし、勝敗およびセット数同一の場合は得失点の得点の多いチームが決勝トーナメントに進めることとする。

4 その他

(1) 出場選手はゼッケンを背中につけること。

(2) 検定球（水鳥）を使用する。

(3) ベンチには、監督、コーチ、マネージャー、選手以外は入らないこと。

(4) 主審は指名審判制で行い、線審、スコアラーは対戦学区相互で行う。

(5) 選手はもちろん応援者でも、相手のジャッジを誤らせたり、相手の気を害するような野次等の行為があった時は、テクニカルファールを取る。

(6) 体育館シューズを必ず着用すること。

(7) その他、競技運営にかかる一切の問題については、競技委員長が最終決定を行う。

ゼッケン ← 28 cm 程度 →





ソフトボール

1 チーム編成と参加制限

(1) 監督 1 名、コーチ 1 名、選手 19 名以内とし、選手は 30 歳以上の者とする。
試合には、40 歳以上の者が常時 5 名以上出場していること。

(2) 監督、コーチがプレイヤーを兼ねる場合も、選手登録は 19 名までとする。

2 競技運営方法

(1) 2021 年オフィシャルソフトボールルールに準じて行う。(コロナ対策案を含む。) 指名選手及び再出場制を採用することができる。

(2) 試合は時間制を採用し、決勝戦は 60 分 7 イニング、その他は 50 分 5 イニングとする。

ただし、残り時間が 5 分をきって後攻チームがリードしている場合はその時点で試合終了とする。

(3) 同点の場合は抽選により勝者を決定する。延長は行わない。決勝戦も同様とする。

(4) 監督の背番号は 30 番、コーチの背番号は 31 番とし、抗議は監督だけができる。

(5) 特設ルールとして、1 回の攻撃で 5 点以上の得点が入った場合はその時点で攻撃を終了し、攻守交代とする。次のイニングの攻撃は無死、無走者として行う。ただし、決勝戦においては特設ルールは採用しない。

(6) ユニホーム、上着には背番号をつける。(ゼッケンを使用してもよい。)

40 歳未満の選手は背番号等に赤ラインを施すこと。

(7) 帽子は野球帽、靴は運動靴とする。ポイントシューズの使用は認める。

捕手はマスクを打者はヘルメットを必ず着用すること。また、捕手はレガースを着用することが望ましい。

(8) オーダー表は試合開始予定時刻の 10 分前に各会場バックネット裏にいる審判員に提出すること。

試合進行をスムーズにするため、10 分前には試合会場に集合し待機すること。ただし、試合が連続するチームは、この限りではない。

(9) 試合級は J S A 検定のゴム製 3 号球とし、バットは、J S A 検定の安全マーク入りのものとする。

(10) 各試合の塁審を担当するチームは抽選後の組み合わせにて決定する。3 名出すこと。また抽選後の出場辞退の場合も審判に該当する場合は必ず 3 名派遣すること。

(11) その他、競技運営にかかる一切の問題については、競技委員長が最終決定を行う。

バレーボール

1 チーム編成と参加制限

- (1) 監督1名、コーチ1名、マネージャー1名、選手20名以内とし、選手は18歳以上の者とする。試合には、30歳以上の者が常時5名以上出場していること。
- (2) 監督、コーチ、マネージャーがプレイヤーを兼ねる場合も、選手登録は20名までとする。ただし、当日のエントリーは、選手12名以内とする。
- (3) 同一事業所や大学のバレーボール部員は、当日のエントリーにおいて2名以内とし、試合に同時出場してもよい。

2 競技運営方法

- (1) 男子は、令和4年度日本バレーボール協会9人制競技規則に準じて行う。(コロナ対策案を含む)
女子は、「ママさんバレーガイドライン2010」に準じて行う。(コロナ対策案を含む)
- (2) 男女とも、2ブロック2組制で行い、各組の単純トーナメントで行う。3位決定戦は行わない。なお、各ブロックのチーム数・トーナメント表は参加学区数に応じて検討する。
- (3) 参加学区数が少ない場合、各ブロック内での試合はリンク形式で、決勝は上位2チームで行う。順位決定は①勝ち数・②セット数・③総得点・④総失点の順とする。
- (4) 男女共、第1・第2セットは1セット21点先取、第3セットは1セット15点先取の3セットマッチラリーポイント制で行う。(ジュースはなし)

(5) 基準

	試合球	ネットの高さ	コート広さ
男子の部	検定5号球 (カラー)	2.38m	10.5m×21m
女子の部	検定4号球 (白球)	2.10m	9.0m×18m

(6) ゼッケン

	18歳～29歳	30歳以上
男子の部	29番以下	30番以上
女子の部	24番以下	25番以上

学区名 ゼッケン番号

20cm程度

28cm程度

3 その他

- (1) 選手は、ゼッケンを胸と背中に糸で縫いつけること。
- (2) 補助役員は、第1試合は第3試合チームから、第2試合以降は、前試合の敗者チームから出すこと。補助役員は、副審1名、ラインズマン4名、スコアラー2名
- (3) ベンチは、監督、コーチ、マネージャー、選手の15名以内とする。
- (4) 公式練習は行わない。ただし、前試合終了後、5分間の合同練習をする。
- (5) 体育館シューズを必ず着用すること。
- (6) 選手交代は、1セット3回以内とする。
- (7) 女子の部については、ブロック時、ボールに接触した同じプレイヤーの続いての接触はドリブルとなる。(ボールがネットに触れればプレーは続行できる。接触回数は2回となる)
- (8) その他、競技運営にかかる一切の問題については、競技委員長が最終決定を行う。
- (9) 競技運営方法(2)については、参加チーム数により変更する場合がある。